

CONTENTS (目次)

- 02 特集
野焼きで守る、阿蘇の草原
～夜峰山・御竈門山一部で10年ぶりに野焼きが再開～
- 06 みなみあそダイアリー
- 10 今年度の区長さんです
- 11 みなさんよろしく申し上げます!
(着任された先生の紹介)
- 12 大切なお知らせ
南阿蘇村行財政改革計画(令和8年度～令和12年度)/早めの避難「予防的避難」を心がけましょう/令和8年度狂犬病予防集合注射について/戸建て木造住宅の耐震化を支援します/税務課からのお知らせ/水道料金の請求方法が変わります
- 18 村職員の人事異動
- 20 みなみあそ情報ひろば
- 23 図書室だより
学校通信
- 24 地域おこし協力隊通信
村と人
一品どうぞ
- 25 ハートがたくさん村づくり
なんでも南部分署
ポリスインフォメーション
- 26 教えて!村長さん
- 27 3歳になったよ!
出生・おくやみ・社協告知板
編集後記
- 28 南阿蘇カレンダー

南阿蘇村の

人口・世帯数 (令和8年3月31日現在(前月比))

男 4,800 (-18)

女 5,012 (-19)

計 9,812 (-37)

世帯数 4,843 (+14)



今月の表紙

野焼きで黒くなった山々は、春の訪れを知らせてくれました。夏には美しい緑、秋には赤や黄色の紅葉、冬には白い雪など、南阿蘇では山の色でも四季を感じることができます。



野焼きで守る、阿蘇の草原

～夜峰山・御竈門山一部で10年ぶりに野焼きが再開～

平成28年の熊本地震の発生。

この地震による地割れなどの物理的な被害により、立ち入りが制限された区域があり、一部地区では10年間野焼きの中断を余儀なくされてきました。

しかし、多くの地域住民や関係者のご協力もあり、10年ぶりに中松三区で野焼きが再開されました。10年ぶりの野焼きということもあ

り、茅が高くなっていったことから

延焼事故なども心配されましたが、当日は野焼きに適した天候状況の中、地元住民の豊富な経験と知識のおかげで無事故や怪我なく終了することができました。

今回は、野焼き再開に向けた動きや携わった関係者の想い、現在の村の野焼きの状況について、特集いたします。



④ 関係者を含む多くの人に協力いただきました ⑤ 野焼き直後の草原

野焼き再開までの経緯

夜峰山・御竈門山は1000年以上人の手で受け継がれてきた草原の一部で、村の草原を象徴する重要な場所となっています。さらに国の重要な文化的景観の選定地にもなっており、阿蘇の世界文化遺産登録を目指す上でも重要な地域と位置付けられています。

しかし、熊本地震の影響もあり、これまで野焼きを再開することはできていませんでした。この「10年」という節目に、再び火を入れ、草原を再生させたい。その一心で、村は国、県、公益財団法人阿蘇グリーンストック、そして地元住民の皆さんと何度も協議を重ねてきました。その情熱が実を結び、この度「夜峰山・御竈門山野焼き再開実行委員会」が発足。去る3月1日、火の山トンネル周辺(池の窪牧野近辺)において、待望の野焼きを再開することができました。

野焼き再開までの課題

10年ぶりに夜峰山・御竈門山の野焼きを再開するに当たって、以下の課題がありました。しかし、実行委員会での協議を重ね、再開に向けての取り組みが進められました。

課題

- ・平成28年より野焼きを中断していることから、茅が伸びたままや雑木が生育するなど草原が荒れ始めている
- ・熊本地震の影響により、牧野に亀裂が入っている
- ・野焼き担い手の高齢化や人口減少



野焼き再開に向けた協議

今後について

今回は安全面などを考慮し、以前の4分の1程度に縮小して実施しました。今後も野焼きが継続できるように検討する予定です。

Interview ~インタビュー~ 中松三区 参加者の声

やっと野焼きができ、嬉しかったです。「中松三区原野保全の会」が発足し、打ち合わせなどで皆さんにご協力いただいたおかげで再開でき、感謝しています。

野焼きをすることで、阿蘇の美しい草原を維持でき、村の観光面にも寄与できると思います。今回は10年前の面積の4分の1程度に縮小しての実施でしたが、久々に火入れができたことに意義があると思っています。

当日は参加者同士で声を掛け合い、安全に野焼きができました。地域の人からも「やって良かった」という声が上がリ、住民の横の繋がりも実感できました。野焼きを機にコミュニティが広がることを期待しています。

高齢化や若い人の減少、この10年の空白による経験不足の影響もありま

すが、地区の意見としてはこれからも野焼きを続けていきたいです。野焼きはただ火を入れるのではなく、土地の形状や風の状況を見て安全に燃えるように動くことが重要です。もっと多くの人に野焼きのこと、現場での動きなども知ってもらい、参加者も増やしたいです。

もちろん、地区内でもしっかりサポートしていくので、体制づくりにも力を入れたいです。今回良かった点も反省点も活かして、次年度も実施できることを願っています。

(左) 高木政夫さん (右) 佐藤弘幸さん



① 火入れをするベテランの人々 ② 野焼き最中の草原